

V. 医療提供

1. 診療所

自宅に戻った脳卒中患者に対する医療提供は、高血圧の管理が 158 件（50.5%）と最も多く、その提供方法は、外来のみが 104 件（33.2%）、訪問診療もしくは往診のみが 11 件（3.5%）、外来と訪問診療等の両方が 43 件（13.7%）であった。

次いで多かったのは、糖尿病の管理で 143 件（45.7%）であり、提供方法としては、外来のみが 96 件（30.7%）、訪問診療もしくは往診のみが 10 件（3.2%）、外来と訪問診療等の両方が 37 件（11.8%）であった（図 5-1）。

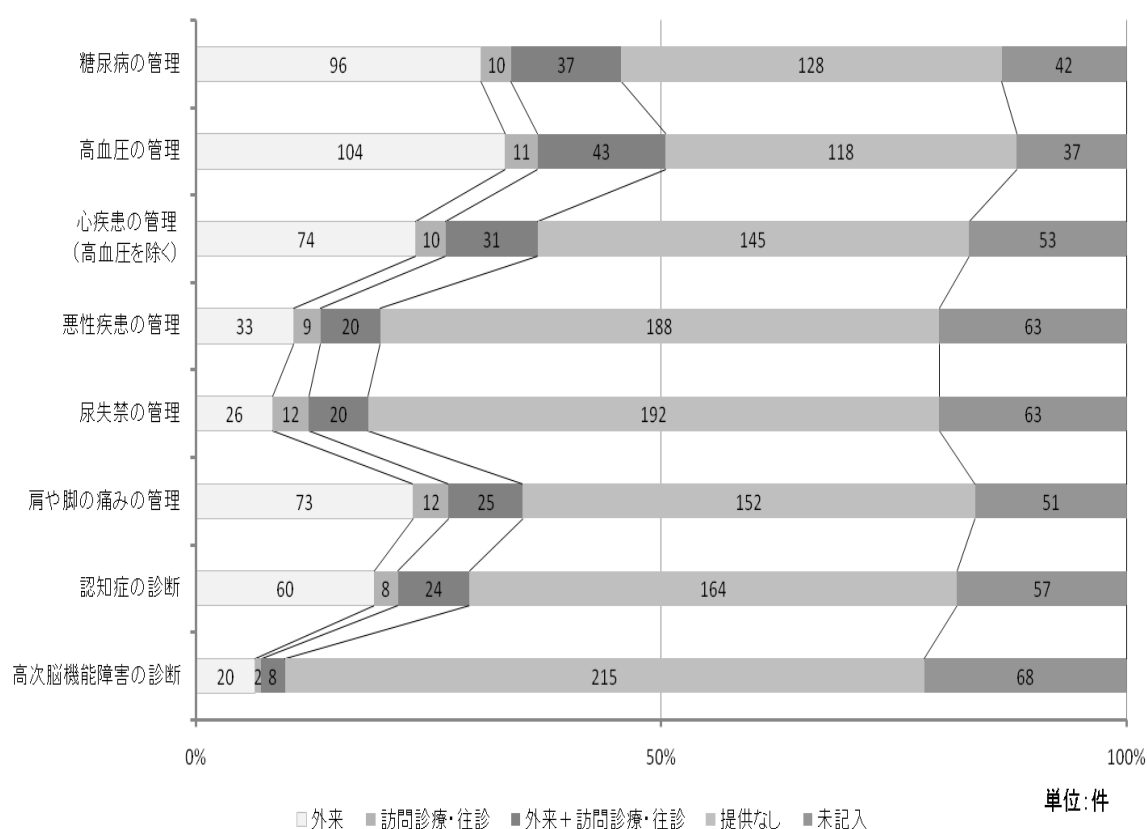


図 5-1 医療提供（診療所） n=313

医療の提供内容と診療科目との関係について図 5-2 から図 5-9 に示した（外来や訪問診療もしくは往診などの提供形態は問わずに集計）。

全ての提供内容において、内科の標榜のある診療所による実施が多く、高次脳機能障害の診断と肩や脚の痛みの管理以外は、内科の標榜がある診療所が各内容を実施している診療所の 80%以上を占めていた。

糖尿病の管理は 313 件中 143 件（45.7%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 131 件（91.6%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 80.4%であった（図 5-2）。

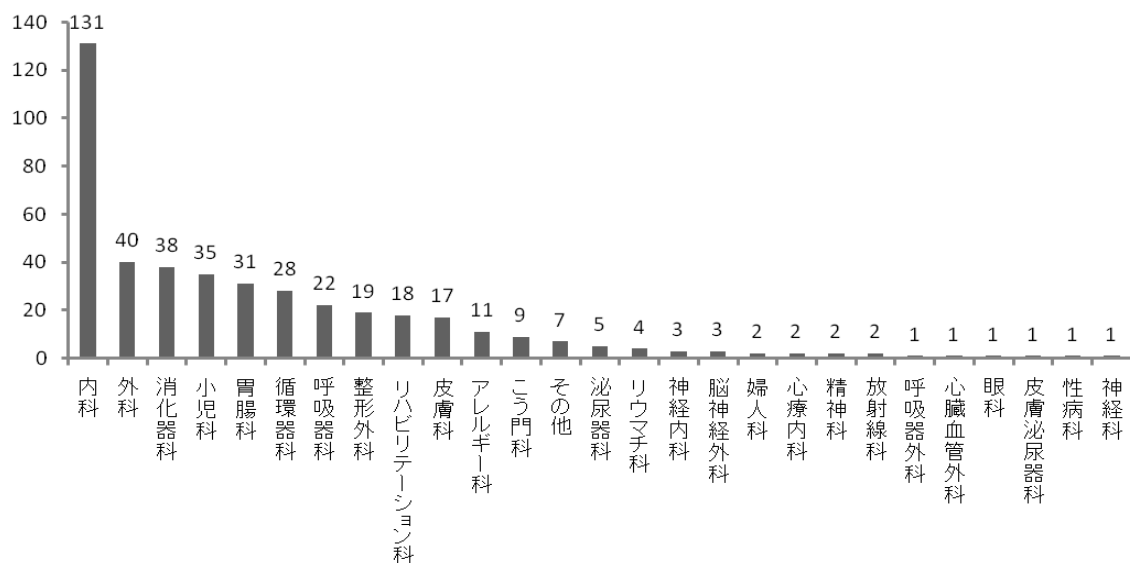


図 5-2 糖尿病の管理に関わっている診療科目 n=143 （単位：件）

高血圧の管理は 313 件中 158 件（50.5%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 137 件（86.7%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 84.0%であった（図 5-3）。

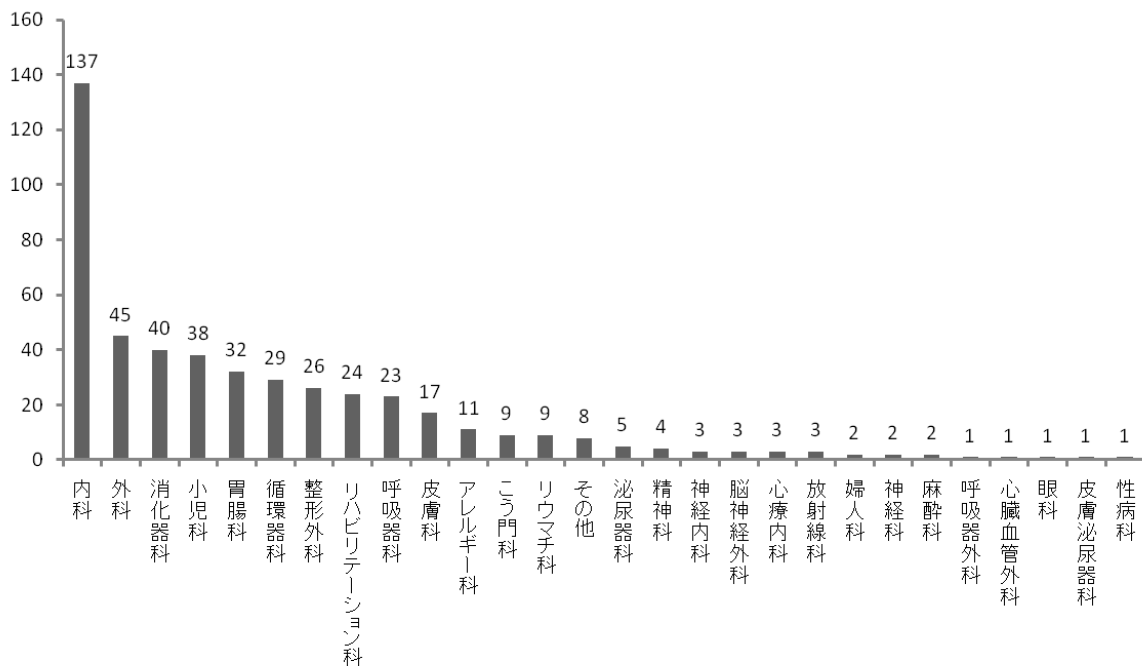


図 5-3 高血圧の管理に関わっている診療科目 n=158 （単位：件）

心疾患の管理（高血圧を除く）は 313 件中 115 件（36.7%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 107 件（93.0%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 65.6% であった。また、循環器科を標榜している診療所の関与は 29 件あり、これは今回回答があった循環器科の標榜がある診療所 31 件の 93.5% であった（図 5-4）。

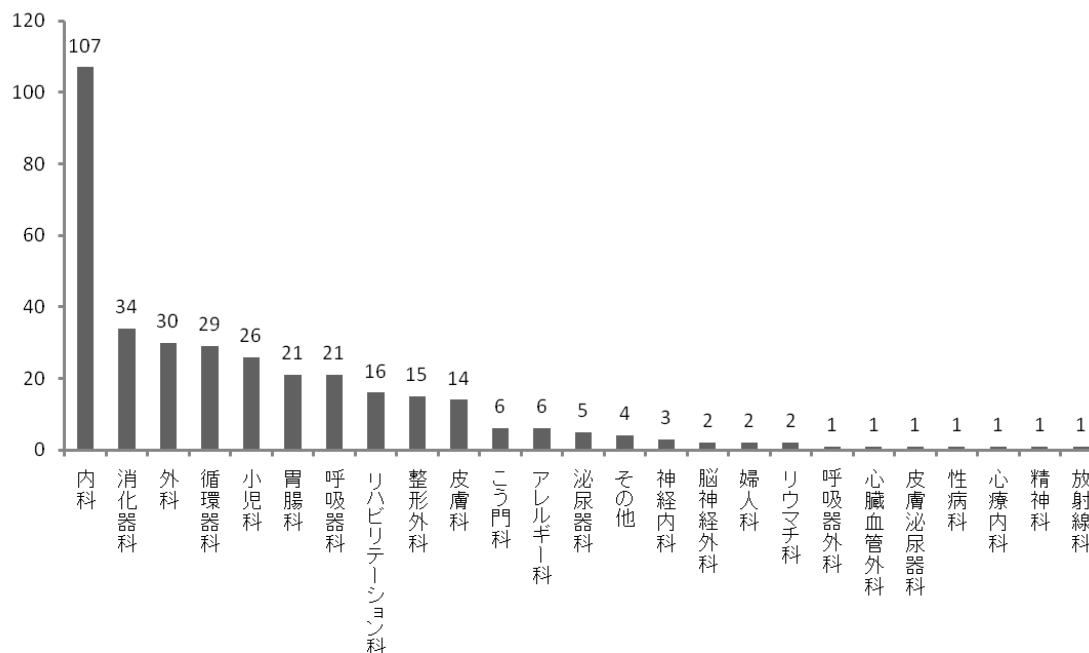


図 5-4 心疾患の管理（高血圧を除く）に関わっている診療科目 n=115 （単位：件）

悪性疾患の管理は 313 件中 62 件（19.8%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 56 件（90.3%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 34.4% であった（図 5-5）。

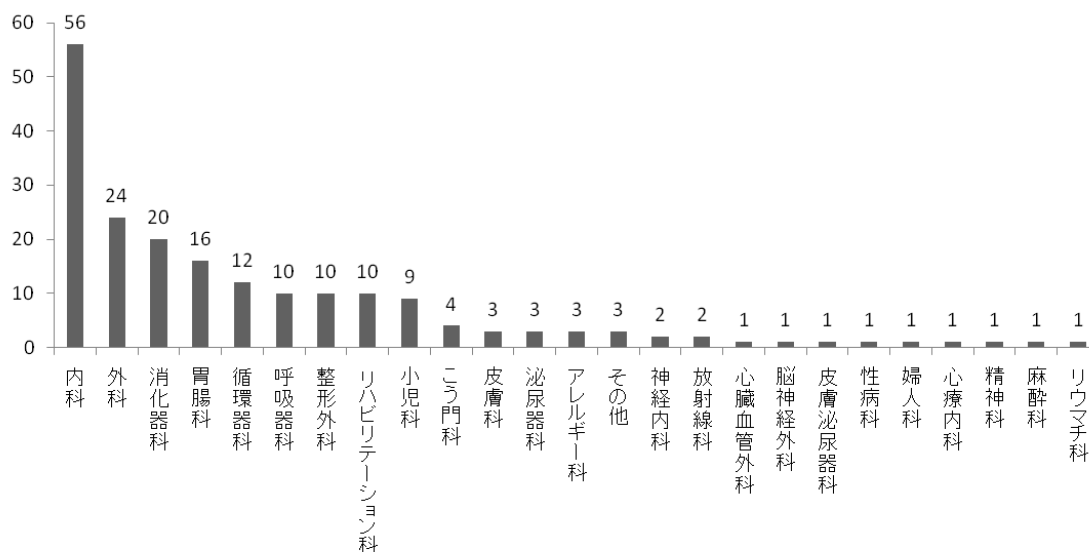


図 5-5 悪性疾患の管理に関わっている診療科目 n=62 （単位：件）

尿失禁の管理は 313 件中 58 件（18.5%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 52 件（89.7%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 31.9%であった。また泌尿器科の標榜がある診療所の関わりは 7 件であり、これは回答があった泌尿器科を標榜している診療所 10 件の 70%である。皮膚泌尿器科については回答があった 3 件全てが、尿失禁の管理の提供を行っていた（図 5-6）。

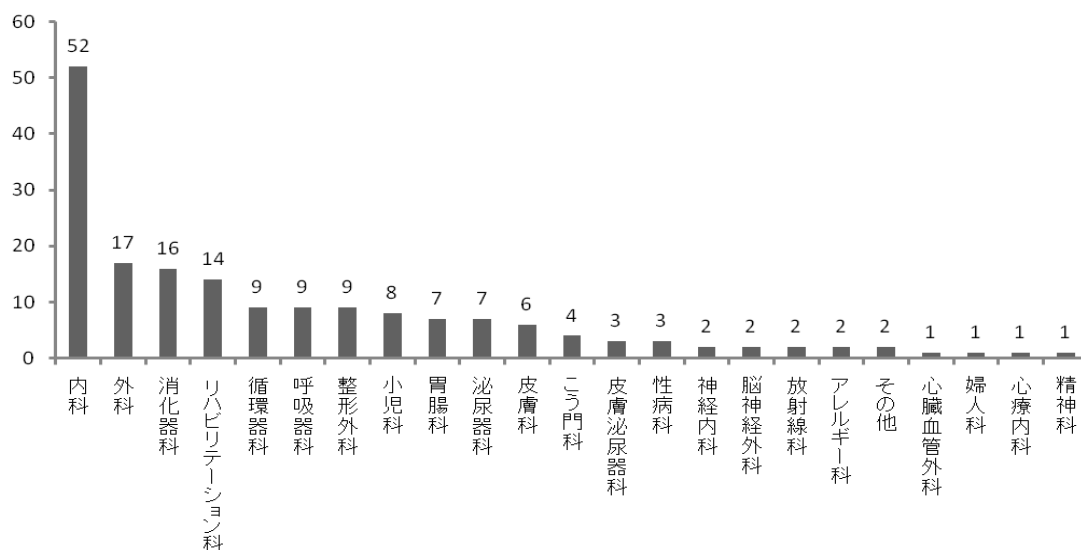


図 5-6 尿失禁の管理に関わっている診療科目 n=58 （単位：件）

肩や足の痛みの管理は 313 件中 110 件（35.1%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 86 件（78.2%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 52.8%である。

また整形外科の標榜がある診療所の関わりは 34 件であり、これは整形外科の標榜がある診療所 49 件の 69.4%であった。

リハビリテーション科を標榜している診療所の関わりは 29 件であり、これは回答があったリハビリテーション科の標榜のある診療所 38 件の 76.3%であった（図 5-7）。

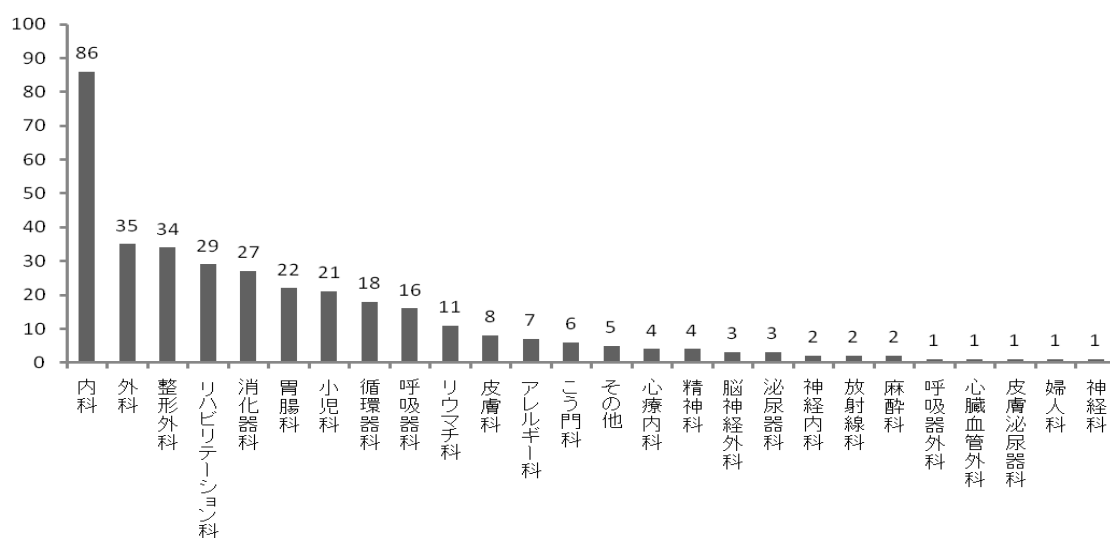


図 5-7 肩や足の痛みの管理に関わっている診療科目 n=110 （単位：件）

認知症の診断は 313 件中 92 件（29.4%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 76 件（82.6%）であった。これは内科の標榜がある診療所 163 件の 46.6%であった。また精神科を標榜している診療所の関わりは 13 件であり、これは精神科の標榜がある診療所 17 件の 76.5%であった。神経内科については、3 件の関わりであったが、これは神経内科の標榜のある診療所 4 件の 75%であった。さらに神経科は、神経科の標榜のある診療所 2 件の全てが関わっていた（図 5-8）。

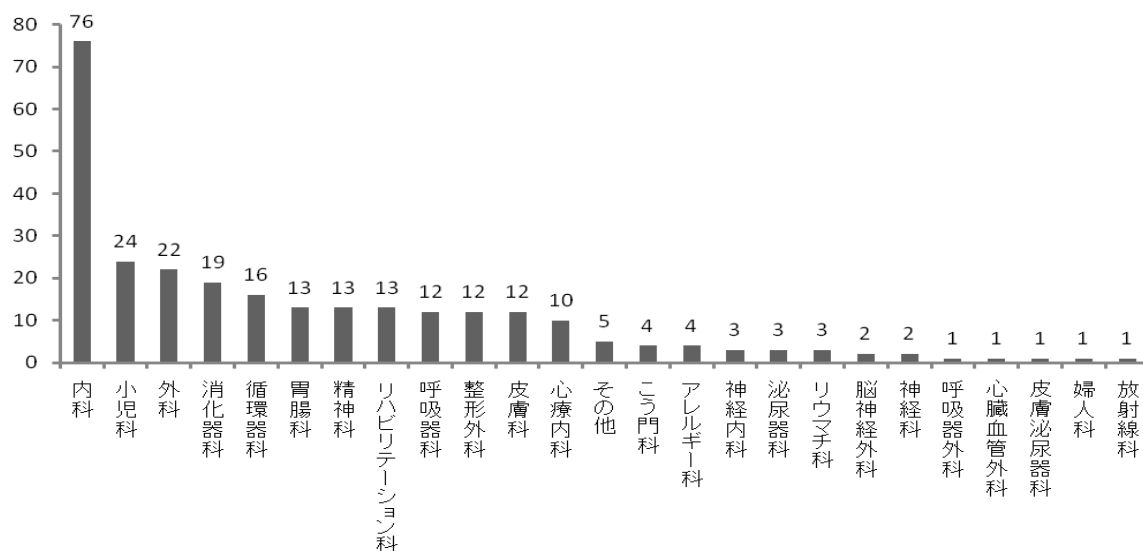


図 5-8 認知症の診断に関わっている診療科目 n=92 （単位：件）

高次脳機能障害の診断は 313 件中 30 件（9.6%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所が 22 件（73.3%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 13.5%であった。

またリハビリテーション科の関わりは 9 件であり、これはリハビリテーション科の標榜のある診療所 38 件の 23.7%であった。精神科を標榜している診療所の関わりは 5 件あり、これは精神科の標榜がある診療所 17 件の 29.4%であった。さらに神経内科の関わりは 3 件あり、これは神経内科の標榜のある診療所 4 件の 75%であった。神経科と脳神経外科については、それぞれの標榜がある診療所が全て関わっていた（図 5-9）。

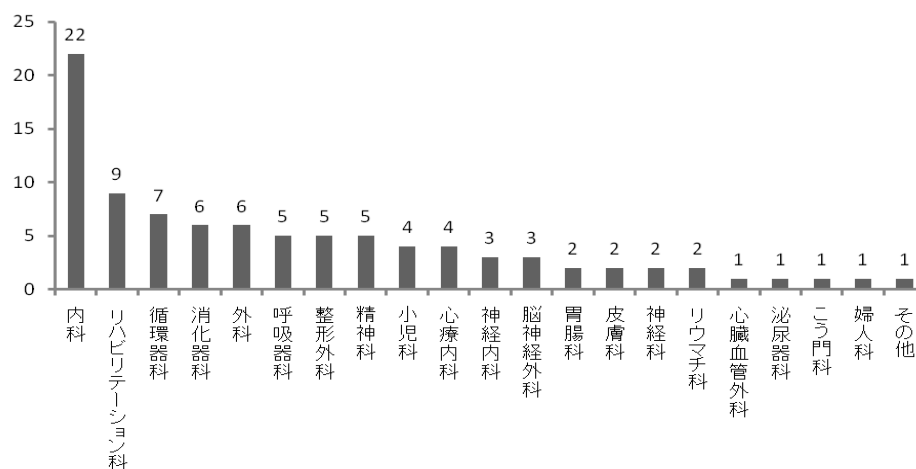


図 5-9 高次脳機能障害の診断に関わっている診療科目 n=30 （単位：件）

2. 病院

自宅に戻った脳卒中患者に対し病院としてどのような医療を提供しているのかについては、全ての項目について半数以上の病院での提供実施が認められた。母数の違いはあるが、診療所での提供状況よりも高い割合であった。また、提供形態としては、外来のみによる提供が多い状況が認められた（図 5-10）。

なお、病院では複数科目を標榜していることが多いため、診療科目ごとの提供状況の分析は行っていない。

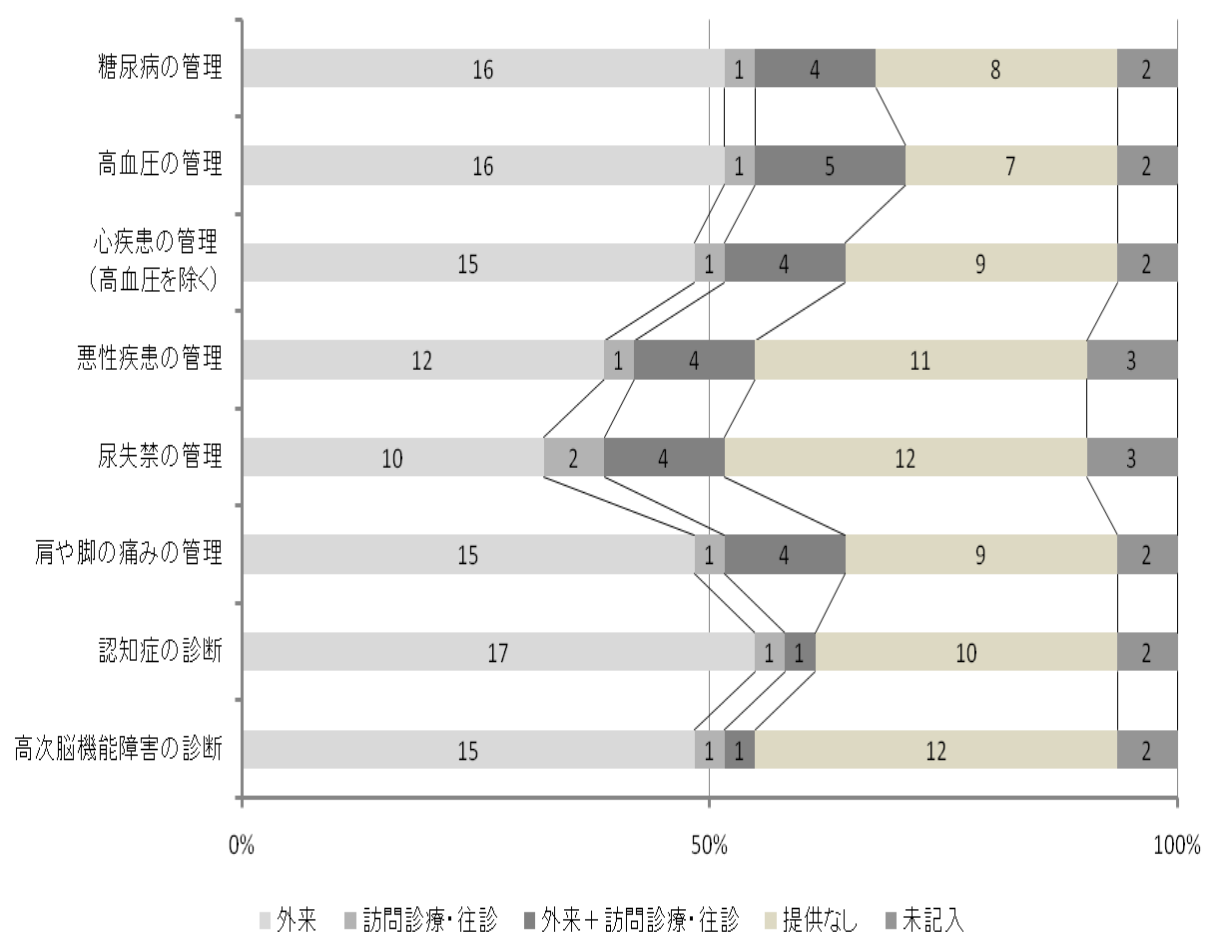


図 5-10 医療提供（病院） n=31（単位：件）

VI. 処置の実施

1. 診療所

自宅に戻った脳卒中患者に対して診療所で行っている処置内容について、最も多いのは褥瘡の処置で 313 件中 87 件（27.8%）であり、処置の実施方法としては、外来のみが 37 件（11.8%）、訪問診療もしくは往診のみが 27 件（8.6%）、外来と訪問診療等の両方が 23 件（7.3%）であった（図 6-1）。

人工透析と褥瘡の処置以外では、処置の実施は外来よりも訪問診療もしくは往診での提供が多い状況が認められた。

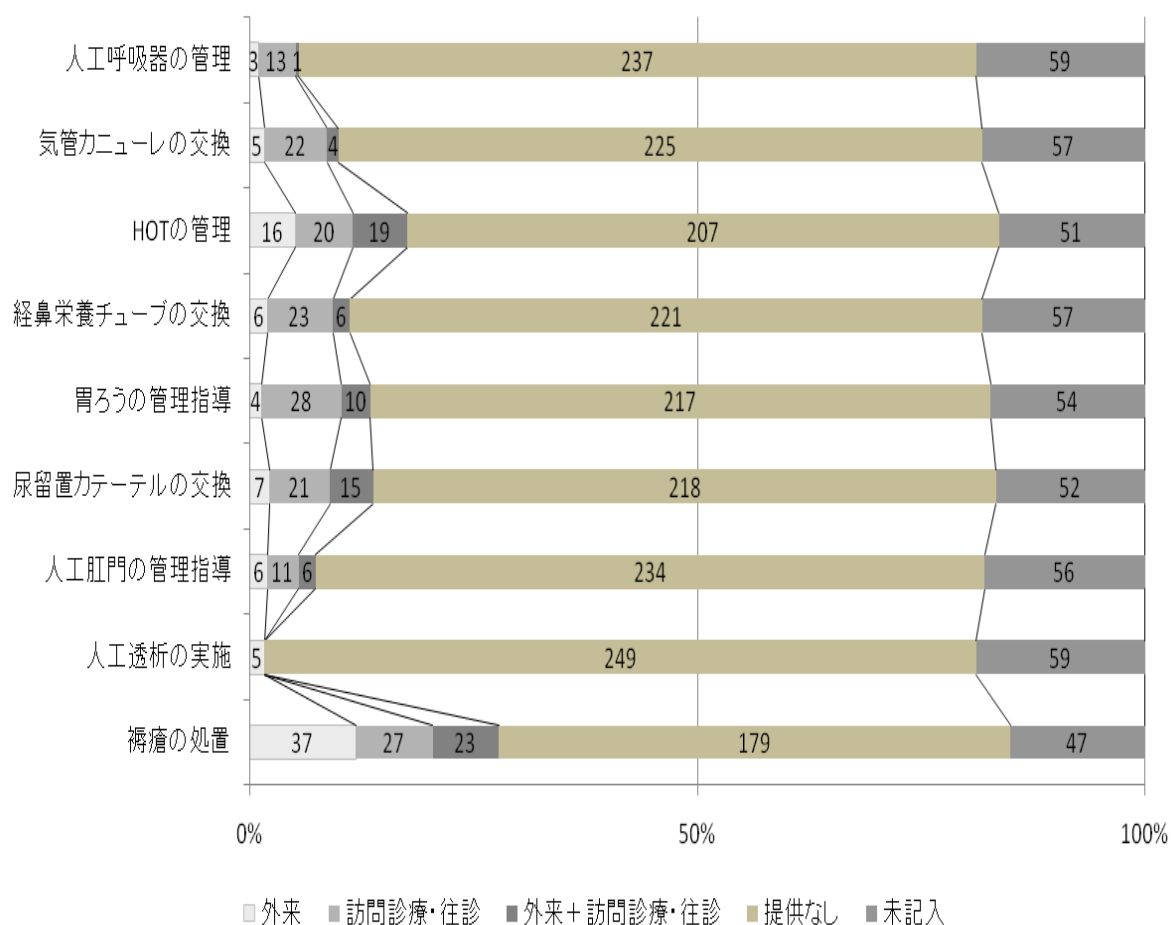


図 6-1 処置内容（診療所） n=313（単位：件）

処置の実施と診療科目の関係について図 6-2 から図 6-10 に示した（外来や訪問診療もしくは往診などの提供形態は問わずに集計）。

これらについても医療提供と同様に、全てにおいて内科の標榜がある診療所の関わりが多かった。

人工呼吸器の管理は 313 件中 17 件（5.4%）で実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 16 件（94.1%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 9.8%であった。また呼吸器科については 3 件の関わりがあり、これは呼吸器科の標榜のある診療所 24 件の 12.5%であった（図 6-2）。

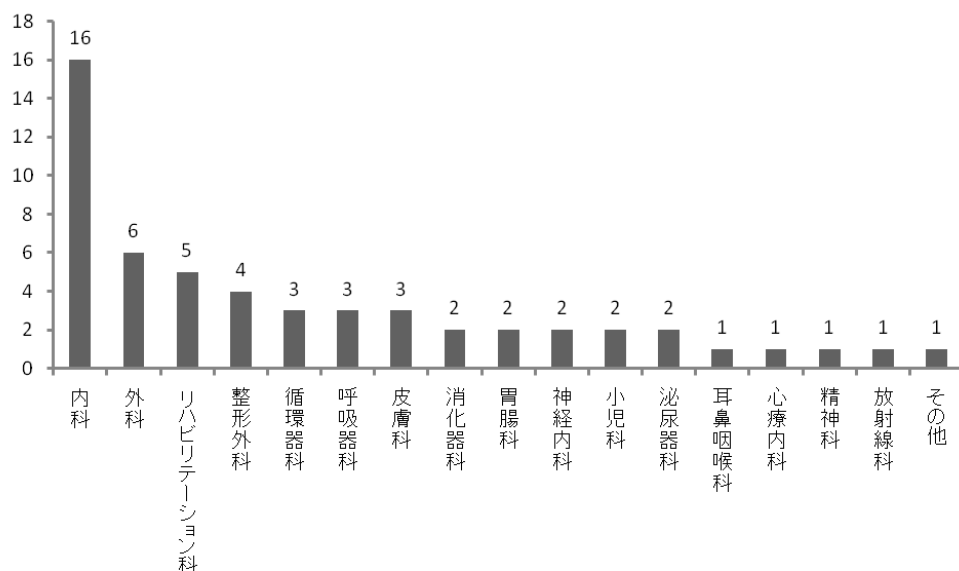


図 6-2 人工呼吸器の管理に関わっている診療科目 n=17（単位：件）

気管カニューレの交換は 313 件中 31 件（9.9%）で実施されており、そのうち内科の標榜がある診療所は 29 件（93.5%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 17.8%であった。また呼吸器科については 4 件の関わりがあり、これは呼吸器科の標榜のある診療所 24 件の 16.7%であった（図 6-3）。

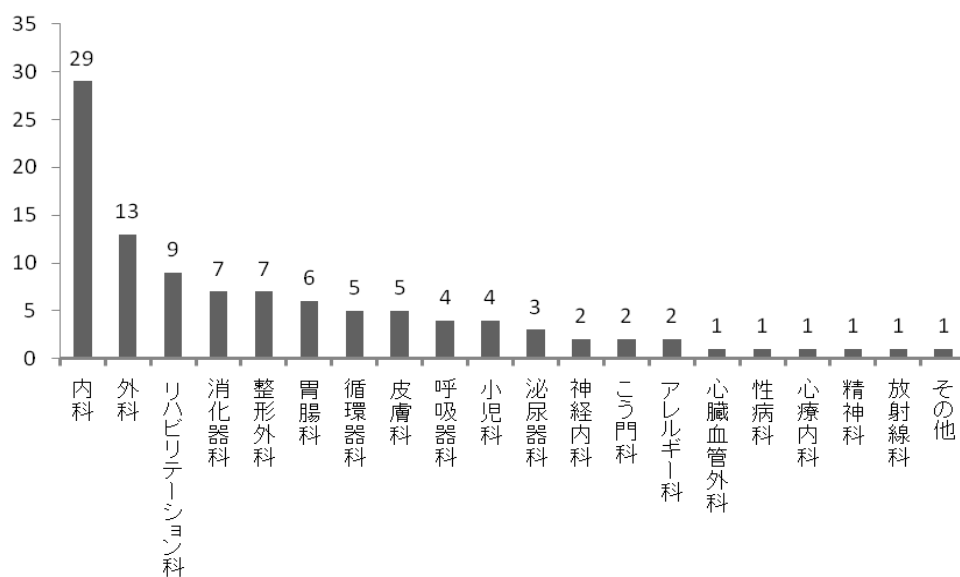


図 6-3 気管カニューレの交換に関わっている診療科目 n=31（単位：件）

HOT の管理は 313 件中 55 件（17.6%）で行なわれており、そのうち内科の標榜がある診療所は 53 件（96.4%）であった。また呼吸器科については、10 件の関わりがあり、これは呼吸器科の標榜のある診療所 24 件の 41.7%であった（図 6-4）。

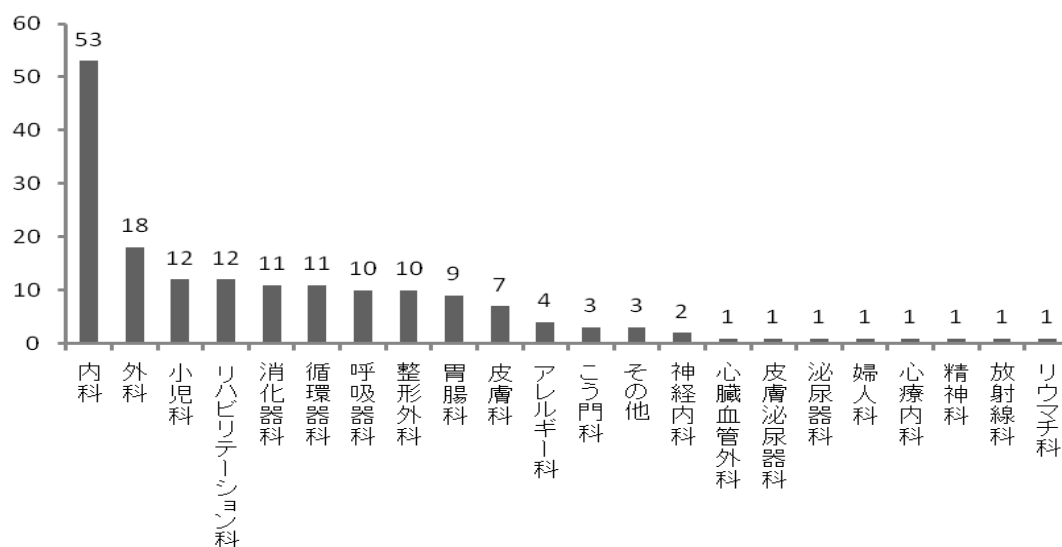


図 6-4 HOT の管理に関わっている診療科目 n=55（単位：件）

経鼻栄養チューブの交換は 313 件中 35 件（11.2%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 33 件（94.3%）であった（図 6-5）。

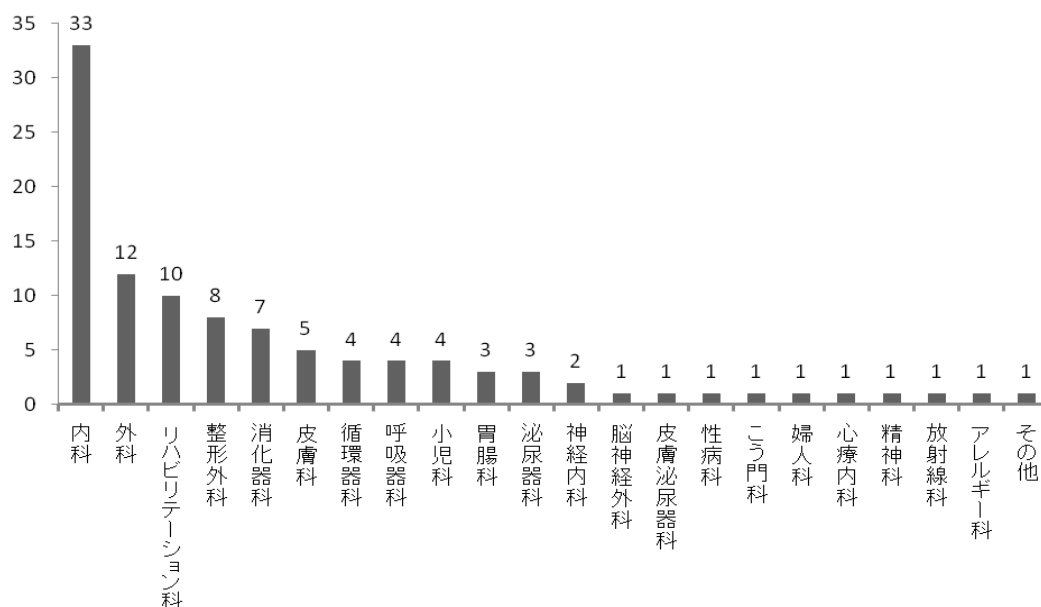


図 6-5 経鼻栄養チューブの交換に関わっている診療科目 n=35（単位：件）

胃ろうの管理指導には 313 件中 42 件（13.4%）が関わっており、そのうち内科の標榜がある診療所は 40 件（95.2%）であった。（図 6-6）。

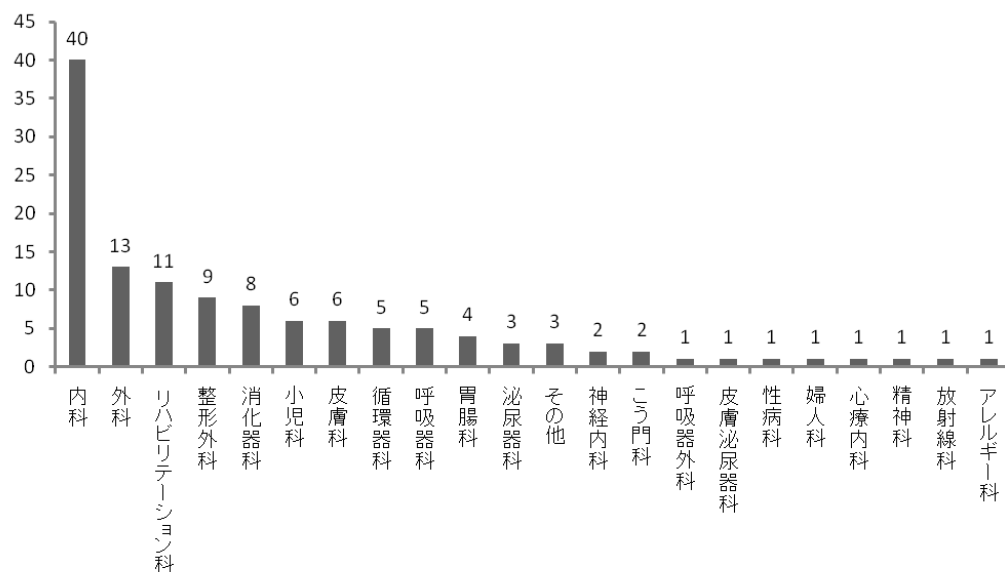


図 6-6 胃ろうの管理指導に関わっている診療科目 n=42（単位：件）

尿留置カテーテルの交換は 313 件中 43 件（13.7%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 38 件（88.4%）であった。また、泌尿器科は 7 件の関わりがあり、これは泌尿器科の標榜のある診療所 10 件の 70%であった。さらに皮膚泌尿器科の標榜のある診療所の 3 件全ての関わりがあった（図 6-7）。

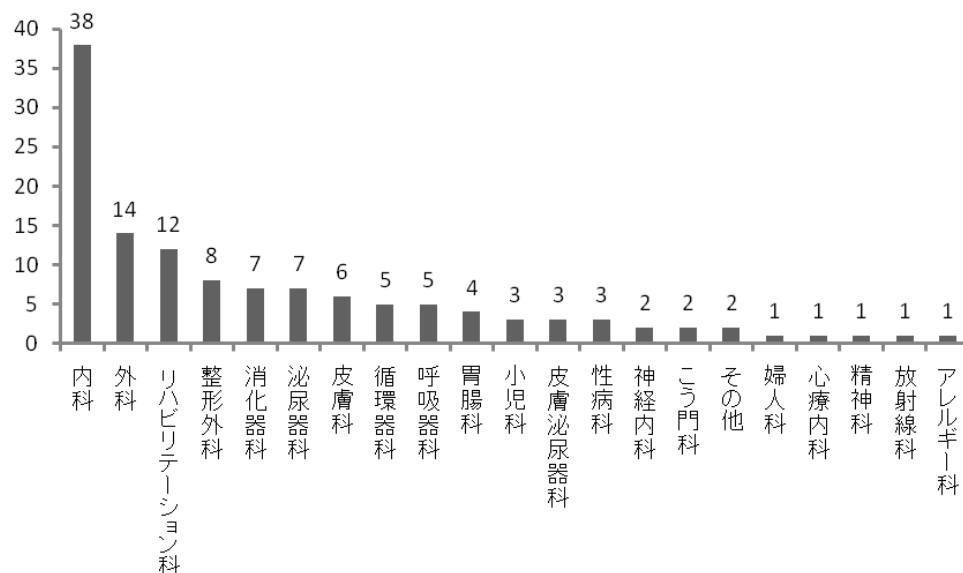


図 6-7 尿留置カテーテルの交換に関わっている診療科目 n=43（単位：件）

人工肛門の管理指導は 313 件中 23 件（7.3%）が実施しており、そのうち内科の標榜がある診療所は 22 件（95.7%）であった。これは内科の標榜をしている診療所 163 件の 13.5%であった。また、外科の関わりが 12 件あり、これは外科の標榜のある診療所 53 件の 22.6%であった（図 6-8）。

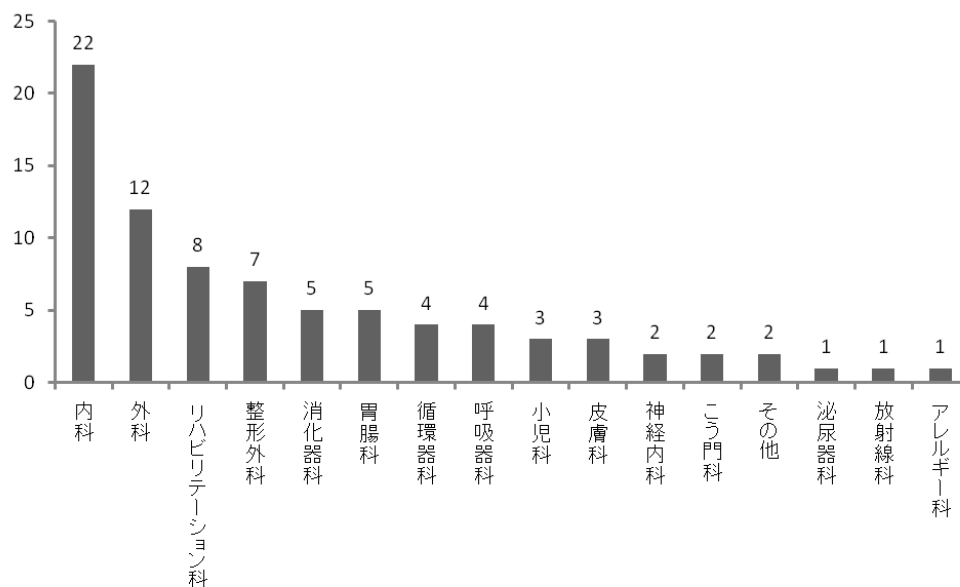


図 6-8 人工肛門の管理指導に関わっている診療科目 n=23（単位：件）

人工透析については 5 件が実施しており、その全てに内科の標榜があった（図 6-9）。

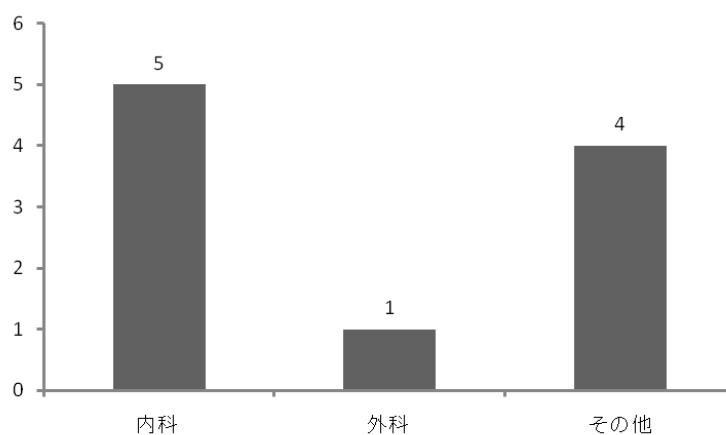


図 6-9 人工透析を実施している診療科目 n=5（単位：件）

褥瘡の処置を実施している診療所は 313 件中 87 件（27.8%）であり、そのうち内科の標榜がある診療所は 63 件（72.4%）であった。これは内科を標榜している診療所 163 件の 53.4%であった。また外科については、27 件の関わりであり、これは外科の標榜のある診療所 53 件の 50.9%であった。

皮膚科については、19 件の関わりであり、これは皮膚科の標榜のある診療所 39 件の 48.7%であった（図 6-10）。

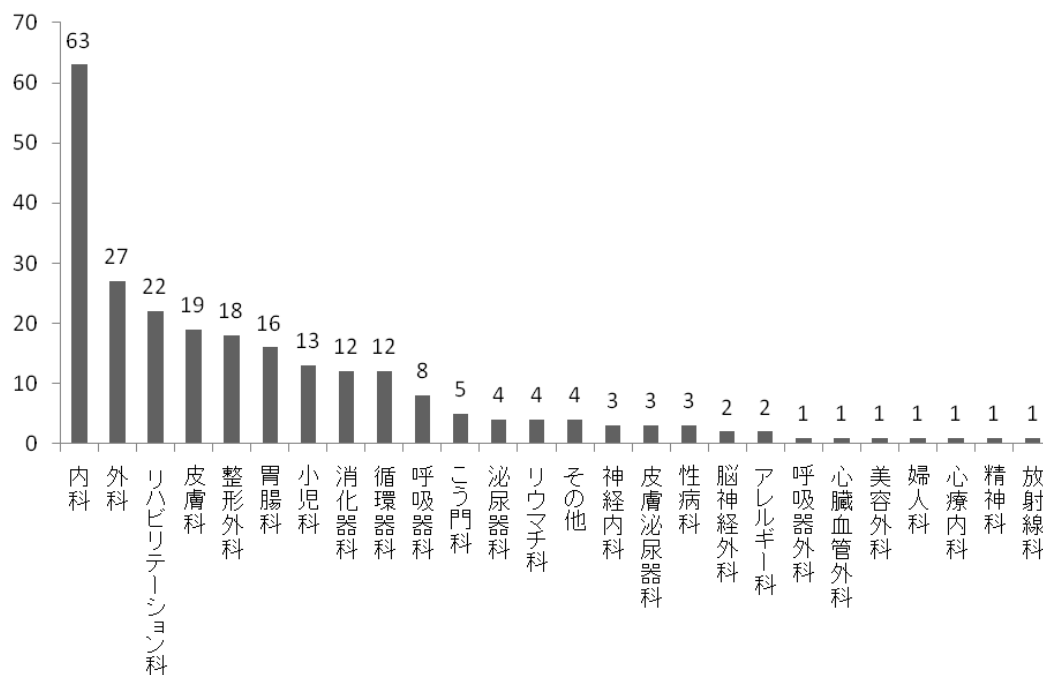


図 6-10 褥瘡の処置に関わっている診療科目 n=87（単位：件）

2. 病院

自宅に戻った脳卒中患者に対して、病院が行っている処置内容として最も多いのは、尿留置カテーテルの交換で31件中19件(61.3%)であった。処置の実施方法は、外来のみが12件(63.2%)、外来と訪問診療等の両方が6件(31.6%)、訪問診療もしくは往診のみが1件(5.2%)であった。

この他50%以上の実施があった処置内容は、褥瘡の処置、人工肛門の管理指導、胃ろうの管理指導であり、人工呼吸器の管理、気管カニューレの交換、HOTの管理、経鼻栄養チューブの交換、人工透析の実施については、提供率が50%を切っていた。

また、これら全てにおいて、母数の違いはあるものの診療所よりも実施割合が高い傾向がうかがわれたが、提供形態については診療所と異なり外来のみでの実施が中心となっていた。

なお、病院では複数科目を標榜していることが多いため、診療科目ごとの提供状況の分析は行っていない(図6-11)。

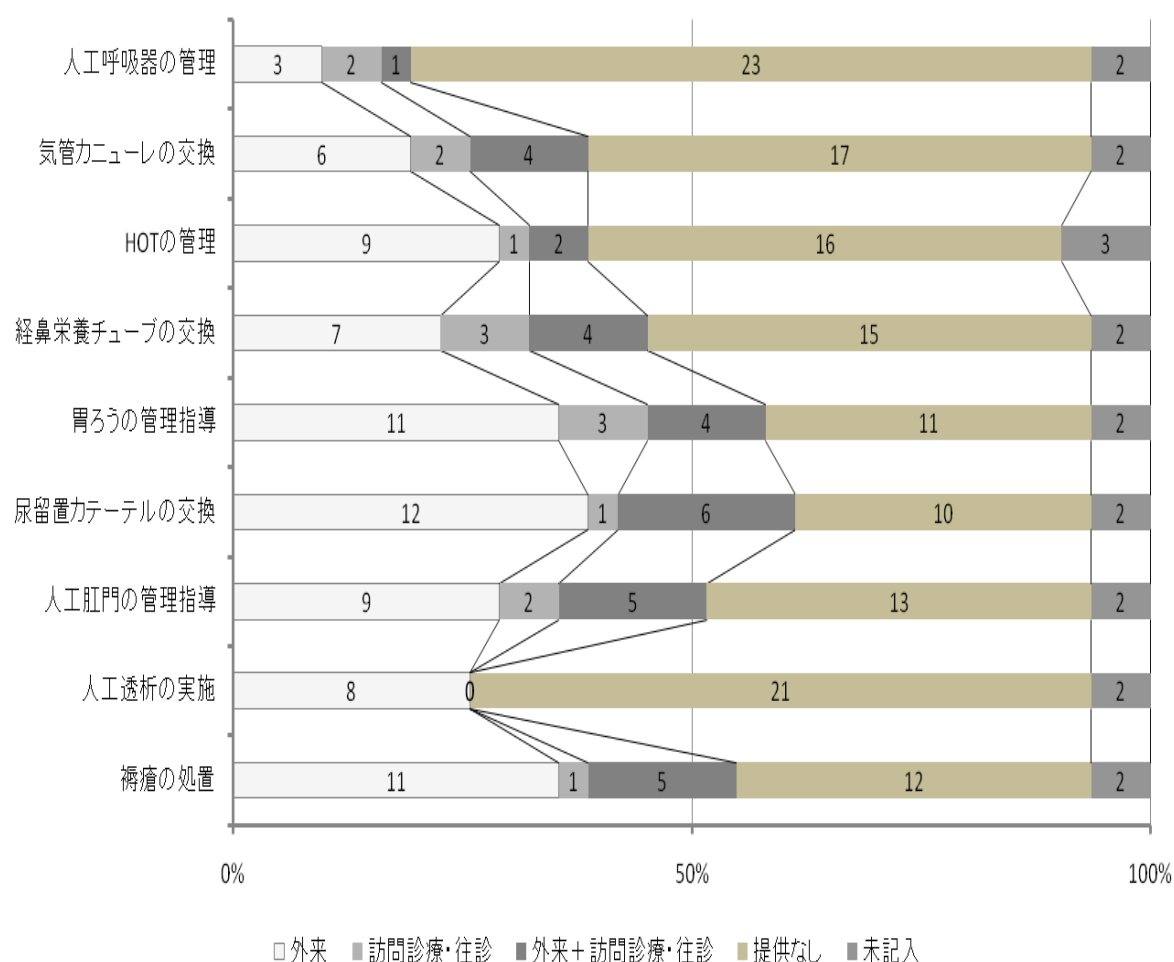


図 6-11 処置内容（病院） n=31 （単位：件）